

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報31

2012・3

泉大津市教育委員会

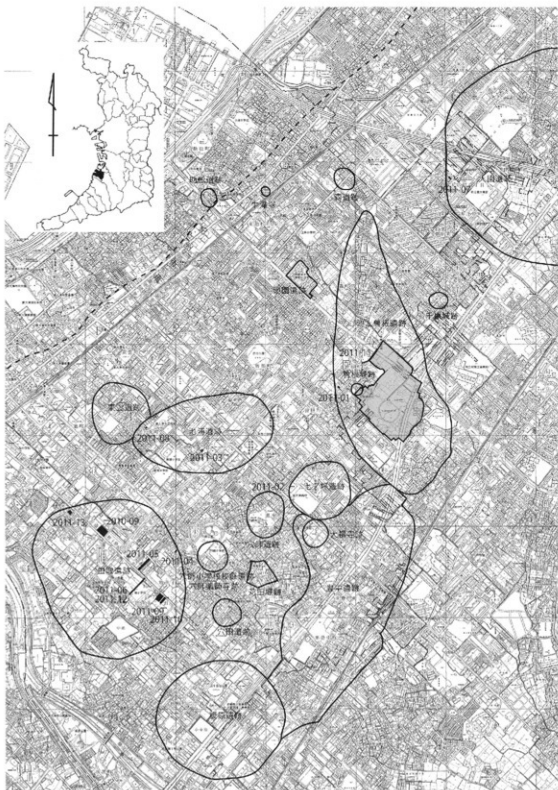
例言

- 1、本調査候補は、泉大津市教育委員会が市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において開発行為に先立って実施した発掘調査報告書である。
- 2、本調査は国庫補助事業（補助対象経費 1,270,000 円国庫補助率 50%・市負担率 50%）として泉大津市が計画・実施したものである。
- 3、本事業は平成 23 年度事業として平成 23 年 4 月 1 日に着手し平成 24 年 3 月 31 日に完了した。
- 4、調査は下記の構成で実施した。

〔調査主体者〕

泉大津市教育委員会教育長
道口 隆一
〔事務局〕
泉大津市教育委員会事務局
生涯学習課長 和田安広
生涯学習課長補佐 志園華実
生涯学習課文化財係 村田文幸
奥野実和

- 5、調査・遺物整理事業に従事したものは下記の通りである。
大向智子 豊島孝志
福田さよ子 早本和美
- 6、本書の座標は世界測地系を使用している。
- 7、出土品および原図・写真類は泉大津市教育委員会事務局が保管している。
- 8、本書の編集・執筆は虎岡、奥野が行った。
- 9、昨年度調査の虫取遺跡（2010-09 地点）について本書に詳細な報告を行い、最終報告とする。また、調査に際し大阪府教育委員会文化財保護課技師 小川裕見子氏の指導・助言をいただいた。



第1図 泉大津市の位置と市内遺跡分布図・発掘調査位置図 (1/20000)

目次

- 第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況
1. 泉大津市の位置と歴史…1
 2. 埋蔵文化財調査の現状…1
- 第2章 試掘調査の結果
1. 穴開遺跡…2
 2. 池前遺跡…2
 3. 池上曾根遺跡…3
 4. 虫取遺跡…9
 5. 大園遺跡…19
- 遺物観察表…20
発掘調査概報抄録…巻末



第2図 市内展望（市庁舎から池上曾根遺跡を望む）

第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に位置する。北部・東部は高石市と和泉市、南部は大津川を境として泉北郡忠岡町と隣接している。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開新谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。市の面積は13,29k㎡(平成24年1月1日現在)、うち約4,33k㎡が公有水面の埋立地である。人口77,488人(平成24年1月1日現在)、東西5.4km、南北5.5kmにわたる都市である。

昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。

いわゆるバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、近年、古い民家や工場の取り壊しが進み、跡地を宅地分譲するケースが増えており、町並みにも大きな変化が見られる。

2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成23年1月～12月の期間に埋蔵文化財発掘届の提出があり、そのうち国庫補助事業により発掘調査を実施したものを対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出数は125件、延べ129遺跡で、うち13件を国庫補助事業として発掘調査を行った。

表1は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、虫取遺跡、池浦遺跡、池上曾根遺跡、豊中遺跡の順で多い。総届出件数に占める工事内容で最も多いのはガス・水道(43件)34%、分譲住宅(32件)で26%、次いで個人住宅(29件)23%を占める。

東日本大震災の影響からか届出数は例年の6割程度であった。全体的に織物工場跡地や田畑等、比較的広面積の土地を戸建住宅地、共同住宅地へと再開発する傾向が伺える。

本概要で報告する調査は、穴師遺跡1件、池浦遺跡2件、池上曾根遺跡2件、虫取遺跡7件、大園遺跡1件の合計13件である。いずれも工事の際の掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の試掘確認調査を行ったものである。

主だった成果としては、虫取遺跡(2010-09)で弥生時代後期～古墳時代の溝状遺構と同時期の上器群を確認した。また、池上曾根遺跡(2011-12)で古代のピットと中世の井戸を確認した。

表1 遺跡別工事件数内訳

	個人住宅	分譲住宅	再開発宅	発掘遺跡	農地	ガス・水道	下水道	埋蔵	電線	その他	合計件数
遺跡別	3	2									6
穴師遺跡			1			3					4
穴師小学校跡高遺跡						2	1				3
穴師東園寺						2					2
穴師遺跡	3					2	3				7
池浦遺跡		10				4	1				15
豊中遺跡	4	1	1			6	2	1			15
七ノ井遺跡		3	1			8				3	12
池上曾根遺跡	4	3				8	2				17
虫取遺跡	7	10	2			6	2				27
池田遺跡						1	1				2
大園遺跡	5					1					6
牛島遺跡			1			1					2
大園中						2					2
池浦城址						1					1

延べ129遺跡

表2 試掘確認調査一覧

遺跡名	調査番号	所在地	用途	調査遺構(m)
池上曾根遺跡	2011-01	豊楽町2丁目189-3, 189-5	木造2階建 分譲住宅	3.6
穴師遺跡	2011-02	池田町4丁目431-1	木造3階建 個人住宅	2.9
池浦遺跡	2011-03	池浦町4丁目219番地の一	木造2階建 個人住宅	1.9
虫取遺跡	2011-04	池浦町2丁目214-10, 1	木造2階建 個人住宅	6.1
虫取遺跡	2011-05	取手子1丁目283-2の一部, 284-2	木造2階建 個人住宅	4.6
虫取遺跡	2011-06	取手子2丁目225-2, 416-2, 223-2, 222-2, 221-3, 221-3, 4+5, 219-2	下水道管布設工事	15.7
大園遺跡	2011-07	末広町1丁目222-12	木造2階建 個人住宅	2.5
池浦遺跡	2011-08	下泉町159-1, 159-3	木造2階建 個人住宅	4.5
池浦遺跡	2011-09	取手子2丁目188-3, 189-3, 192, 194, 195の一部	木造半階建 店舗	0.3
虫取遺跡	2011-10	取手子2丁目184-3, 189-3, 192, 194, 195の一部	木造半階建 店舗	3.0
池上曾根遺跡	2011-11	豊楽町1丁目 地内	水道管布設工事	8.9
虫取遺跡	2011-12	取手子2丁目226-2, 417-2, 237-3, 234-3	下水道管布設工事	3.3
虫取遺跡	2011-13	虫取町1丁目100番1	鉄骨2階建 共同住宅	4.9
虫取遺跡	2010-09	虫取町1丁目7番1	鉄骨2階建 店舗	38.0

第2章 試掘確認調査結果

1. 穴師遺跡

穴師遺跡は豊中遺跡の西側に位置し、その大半は泉穴師神社の境内である。これまでの調査では明確な遺構は認められないが、古墳時代及び中世の遺物の散布がみられる。本年度は個人住宅工事に先立ち1件の試掘確認調査を実施した。以下、その詳細を示す。

2011-02 地点(池浦町5丁目431-1 調査日:平成23年2月28日 調査面積:2.9㎡)

調査地は穴師遺跡の北端部に位置する。個人住宅建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。調査地中央部に幅1m、長さ3mのトレンチを設定し、深さ約1.6mまで重機にて掘削、その後人力により調査を実施した。現地表面から約80cmは近年の盛土で、以下に旧耕作土層が残存する。その下に粘質土系の土層が約40cm堆積し、砂層に至る。明確な遺構・遺物は確認できないため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第3図 トレンチ位置図(1:400)



第4図 断面図(1:60)



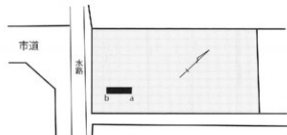
第5図 トレンチ全景

2. 池浦遺跡

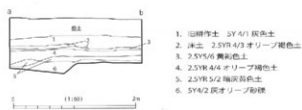
池浦遺跡は、弥生時代前期中段階に始まる泉州地域で最も古い弥生集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、遺跡の中心部は市立病院の東側であると推測される。池上曾根遺跡との関わりを考察する上で重要な遺跡であるが、これらの調査成果は昭和40～50年代にかけてのことで、昭和60代以降は、大規模開発がほとんどみられず、近年の調査は試掘確認調査にとどまっている。今年度は個人住宅建設工事に先立つ、2件の試掘確認調査を実施した。以下、調査地点ごとにその詳細を示す。

2011-03 地点(池浦町4丁目219番2の一部 調査日:平成23年3月16日 調査面積:1.9㎡)

当該地は池浦遺跡の南東部に位置する。個人住宅建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。調査地南東部に幅0.7m、長さ2.7mのトレンチを設定し、深さ約90cmまで重機にて掘削、その後人力により調査を実施した。現地表面から30cmは近年の盛土である。以下に旧耕作土層・床土・自然堆積層と続き、地山層に達する。明確な遺構・遺物は確認できないため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第6図 トレンチ位置図(1:400)



第7図 断面図(1:60)



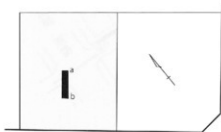
第8図 トレンチ全景



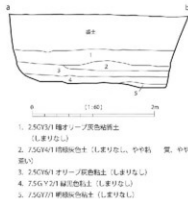
第9図 トレンチ断面

2011-08 地点 (下条町 159-1、159-3 調査日:平成 23 年 10 月 24 日 調査面積:4.5 m²)

当該地は池浦遺跡の西部に位置する。個人住宅建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。調査地に 2 本のトレンチ (1T・2T) を設定し、重機にて地表面化から約 160 cm 掘削、その後人力により調査を実施した。1T・2Tともに現地表面から約 60cm は近年の盛土である。その下に灰色の粘質系土層が堆積する。盛上による造成以前、当該地は河川及び沼状地形であったと考えられる。明確な遺構・遺物は確認できないため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第 10 図 トレンチ位置図 (1:400)



第 11 図 断面図 (1:60)



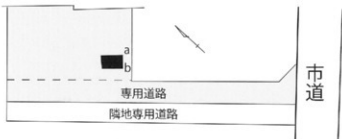
第 12 図 トレンチ全景 (南西から)

3. 池上曽根遺跡

池上曽根遺跡は本市曽根町和泉市池上町に所在する。遺跡範囲が約 105ヘクタールの広大な遺跡である。うち約 11.5ヘクタールが国史跡に指定され、3.5ヘクタールが第一期整備を経て史跡公園となっている。本市域における遺跡の範囲は、曾根神社以西から、森町、千原町の一部を含み、南北に広がる。史跡指定地域以外の地域は、田村落と昭和 40 年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため、史跡指定地域となっている遺跡の中心部構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。本年は分譲住宅 (1 件)・配水管布設工事 (1 件) 計 2 件の試掘確認調査を実施した。以下、調査地点ごとに詳細を示す。

2011-01 地点 (曾根町 2 丁目 189-3、189-5 調査日:平成 23 年 2 月 21 日 調査面積:3.6 m²)

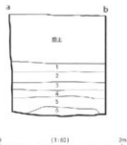
当該地は池上曽根遺跡の西部に位置する。分譲住宅建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。調査地中央部に幅 1.5m、長さ 2.5m のトレンチを設定し、深さ約 1.6m まで重機にて掘削、その後人力により調査を実施した。現地表面から約 80cm は近年の盛土である。下層は旧耕作土層・自然堆積層と続き、地山層に達する。明確な遺構・遺物は確認できないため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第 13 図 トレンチ位置図 (1:400)



第 15 図 トレンチ全景



1. 腐植土 (2.5Y4/1 灰色粘質土)
2. 7.5Y4/1 灰色粘質土
3. 7.5Y 5/2 灰オリーブ色粘質シルト
4. 10YR4/2 灰粘質土
5. 10YR4/3 灰い黄褐色粘土
6. 2.5Y5/3 黄褐色粘質砂

第 14 図 断面図 (1:400)

2011-11 地点(曾根町1丁目地内 調査日:平成23年10月31日～11月9日 調査面積:89㎡)

当該地は池上曾根遺跡の中央部、国史跡指定地の西部に隣接する。配水管布設工事により遺跡面を破壊する恐れがあるため、試掘確認調査を実施した。工事は長さ143.99mの範囲に幅約70cm、深さ87～130cmの溝状に掘削の予定である。当該道路は2007年に下水道管渠掘削工事が予定されたため、工事に先立って試掘確認調査を実施し(2007-09)古墳溝・中世井戸・中世土坑とそれに伴う遺物を確認している。

調査は土層観察、出土遺物採集に主眼を置いた。工事区全体を重機にて掘削し、その後人力により調査を実施し、写真撮影・図面作成などを行った。土層の堆積状況を概すと、現地表面から50cm程度は近年の盛土である。その下に旧耕作土(第2層)、包含層(第3層)が20～50cm堆積している。包含層の下層に遺跡面が確認された。調査区全体で溝(SD)1条・井戸(SE)1基・ピット(P)16基を確認した。以下時代別に詳細を示す。



第16図 トレンチ位置図(1:600)

遺構

【古墳時代の遺構】SD01 長さ1m以上、深さ22cm調査区外に延びる。出土遺物から古墳時代と考えられる。

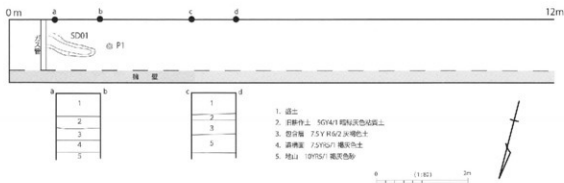
【古代の遺構】P9 直径90cm、深さ60cmほぼ円形である。出土遺物から古代と考えられる。

P10 直径25cm、深さ7cm、円形である。埋土全体が被熱している。出土遺物から古代と考えられる。

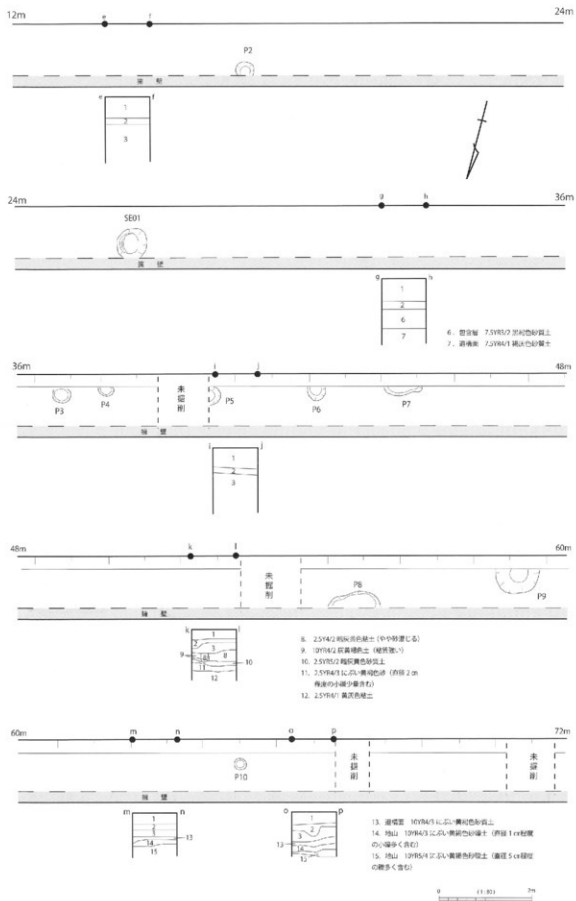
【中世の遺構】SE01 直径65cm、深さ80cm以上である。湧水のため、最下部まで目視で確認することは困難であったが、直径約45cm、深さ約25cmの曲げ物を3段以上重ねて井戸枠としていることを確認した。底部より瓦器片が出土した。2007年度調査でも同様の規模・製法の井戸が出土しており、関連がうかがわれる。

遺物

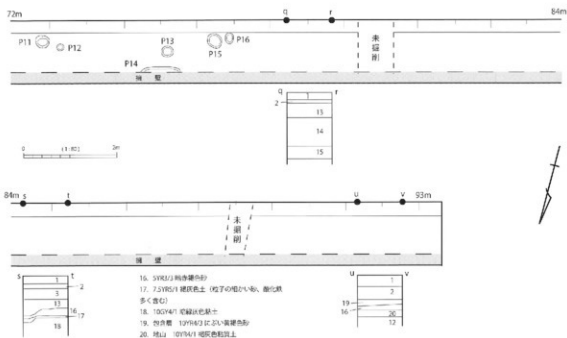
23点を図示する。1～4は須恵器杯身である。1・2は口縁の立ち上がりから5C後半、3・4は6Cと考えられる。5は須恵器杯蓋である。7Cと考えられる。6は高杯の脚部である。7は器台脚部である。6C後半である。8は土師器壺である。8は真っ直ぐにのびる口縁の内外面に細かいヘラ磨きの痕が残る。3C後半であろう。9・10は土師器壺、12は須恵器底部である。9C後半～10C頃と考えられる。11は土師器皿である。外面に指の圧痕が残る。13は緑釉陶器であろうか。全体的に軸葉が刺刺している。外面は回転ヘラ削り、内面は回転ナゲ調整を行う。14は土師質埴、15は須恵質埴である。14・15はSE01から出土した。井戸の底部付近から出土していることから、井戸の廃棄の際に運棄されたものであろう。遺構の時代は中世であるが、遺物は8世紀から9世紀のものと考えられる。16・17は土師器壺である。18は須恵器甕である。19・20は瓦器碗である。21は土師器皿である。時期は不明である。22は平瓦である。



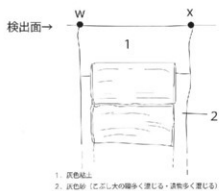
第17図 2011-11地点 平面図・断面図(1)



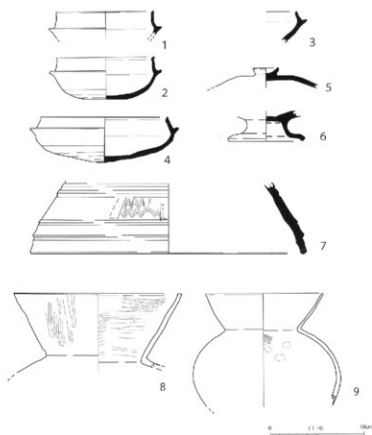
第 18 図 2011-11 地点 平面図・断面図 (2)



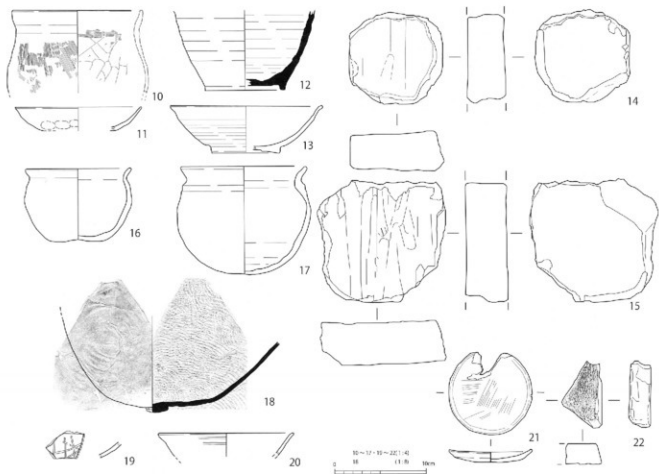
第19図 2011-11地点 平面図・断面図(3)



第20図 SE01 平面図・断面図(1:20)



第21図 遺物実測図(1:4)



第22図 遺物実測図 (2)



調査区全景



SD01 完掘状態 (北から)

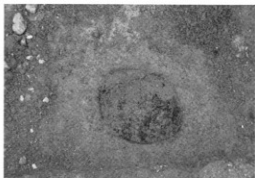


e-f 地点セクション (南壁)



SE01 完掘状態 (西から)

第23図 2011-11 地点 (1)



P10 検出状況



P13・14・15・16 完掘状況

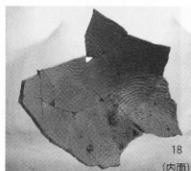
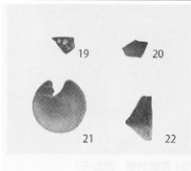
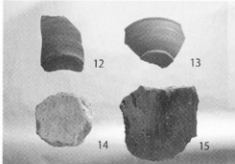
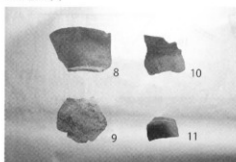
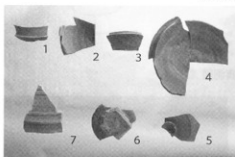


q-r 地点セクション (東壁)



u-v 地点セクション (東壁)

第 24 図 2011-11 地点 (2)



第 25 図 出土遺物

4. 虫取遺跡

虫取遺跡は、本市域で池上曽根遺跡に次ぐ面積を有する遺跡である。耕作地が多く残る地域であるが、近年は共同住宅・宅地造成などの開発が増加している地域である。平成14年度の調査で中世の井戸・溝、それに伴う遺物が確認されており、中世の居館を思わせる遺構が確認されている。調査の進展により今後の調査が期待される遺跡である。本年は個人住宅(1件)・共同住宅(1件)・下水道管布設工事(2件)・店舗(2件)計6件の試掘確認調査を行った。以下、調査地点ごとに詳細を記す。

2011-04 地点(池浦町2丁目574-10、1 調査日:平成23年5月20日 調査面積:6.1㎡)

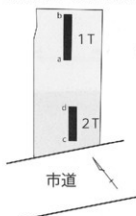
当該地は虫取遺跡の東部に位置する。木造2階建分譲住宅建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。

調査区北側に幅0.7m×長さ5m(1T)、南側に幅0.7m×3.7m(2T)の2本のトレンチを設定し調査を行った。

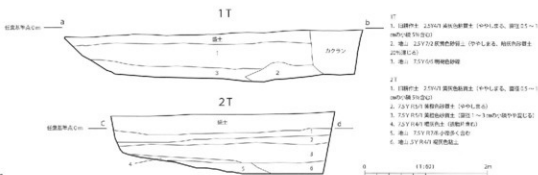
1T 地表面から20cmは近年の盛土である。その下に耕作土・床土が約50cm堆積しており、その直下に地山(明褐色砂礫土)が確認された。遺物・遺構は確認されない。

2T 地表面から20cmは近年の盛土である。その下に耕作土・床土が約50cm堆積し、その下に遺物片を少量含む包含層が5cm堆積する。周辺地の調査で中世の溝が確認されており、関連が推測される。遺構は確認できない。

明確な遺構・遺物が確認できなかったため、調査を終了した。



第26図 トレンチ位置図(1:400)



第27図 断面図



1T 全景



2T 全景



1T ab 断面(北壁)



2T cd 断面(北壁)

第28図 2011-04地点



第29図 遺物実測図

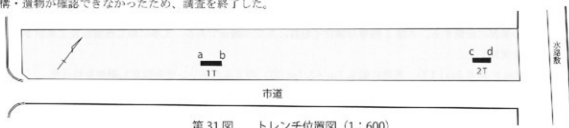


第30図 出土遺物

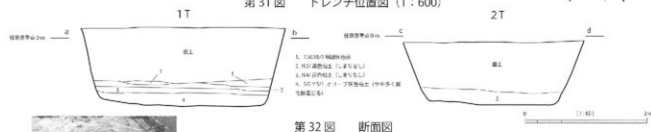
2011-05 地点 (我孫子 1 丁目 253-2 の一部、254-2 調査日：平成 23 年 5 月 25 日 調査面積：4.5 m²)

当該地は血取遺跡の東中部に位置する。木造 2 階建共同住宅建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。

調査区南側に幅 0.7m×長さ 3.4m (1T)、北側に幅 0.7m×3m (2T) の 2 本のトレンチを設定し調査を行った。地表面から 80～100cm は近年の盛土である。その下に黒色粘土層・灰色粘土層を確認した。河川・洗路跡の可能性が高い。遺構・遺物は確認できない。明確な遺構・遺物が確認できなかったため、調査を終了した。



第 31 図 トレンチ位置図 (1:600)



第 32 図 断面図



1T 全景



1T 断面図 (北壁)



2T 全景

第 33 図 2011-05 地点

2011-06 地点 (我孫子 2 丁目 236-2、416-2、223-2、222-2、221-3、221-3・4・5、219-2 調査日：平成 23 年 7 月 8 日～11 日 調査面積：15.7 m²)

2011-12 地点 (我孫子 2 丁目 236-2、417-2、237-3、234-3 調査日：平成 23 年 11 月 14 日 調査面積：3.3 m²)

下水道管新規布設に伴う試掘調査である。調査区内に 3 本のトレンチ (1T～3T) を設定し調査を行った。2011-12 地点は工事区間の追加により 2012-06 地点の延長部分であるため、ここで合わせて報告する。

1T 現地表面から 100cm は近年の盛土である。その下に遺構面である褐灰色土層 (1 層) がある。ピット 1 基を検出した。ピットから少量の土器片を検出した。トレンチ南部からは 70cm 程度の落ち込みを確認した。落ち込みから土器片を少量検出した。この下層は灰褐色砂層 (地山) である。

2T 現地表面から 100cm は近年の盛土である。その下に灰褐色土層 (1 層) があり、土器片を少量含む。1 層は近年の整地の際に旧耕作土と盛土が混ざった層と推測される。その下に褐灰色砂層、オリーブ灰色砂質土層、緑灰シルト層 (池山)、緑灰砂礫土層の順に堆積する。遺構は確認できない。

3T 現地表面から 80cm は近年の盛土である。その下に盛土と旧耕作土が混じった黄灰色砂質土が 30cm 程度堆積する。その下に褐灰色砂質土層が 20cm 程度堆積し、少量の遺物が混じるが遺構は確認できない。

確認された遺構はピット 1 基であり、遺構密度が薄いと判断されるため、遺構を確認した 1T 付近の開削時に立会うこととし、調査を終了した。

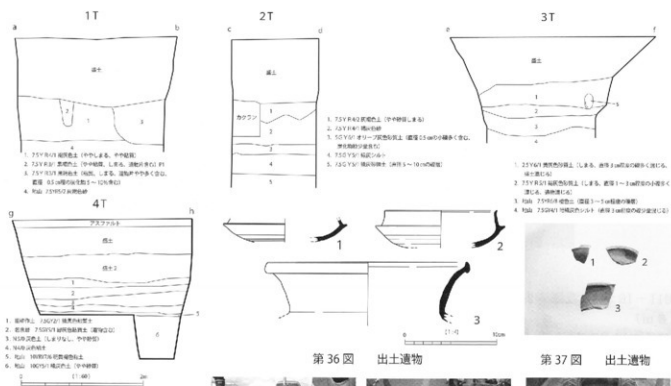
4T 現地表面から100cmは近年の盛土(1層)である。その下に旧耕作土(2層)、包含層である緑灰色粘質土(3層)、灰色土(4層)、灰色粘土(5層)が堆積する。4層が遺構面と考えられるが、遺構は認められない。

確認された遺構はピット1基であり、遺構密度が薄いと判断されるため、遺構を確認した1T付近の開削時に立会うこととし、調査を終了した。

遺物 1・2は須恵器杯身である。1は3T、2は4Tからの出土である。5C後半から6Cと考えられる。3は須恵器甕である。4Tから出土した。



第34図 トレンチ位置図(1:1000)



第35図 断面図



1T全景



2T 断面 (北東壁)



3T全景



第37図 出土遺物



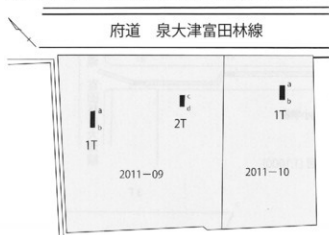
4T全景

第38図 2011-06・12地点

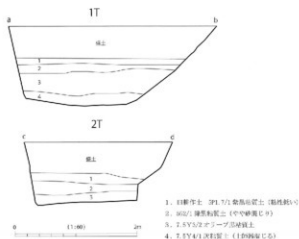
2011-09 地点(我孫子2丁目188-3、189-3、193、194、195の一部 調査日:平成23年10月27日 調査面積:6.3㎡)

当該地は虫取遺跡の東部に位置する。店舗建設に先立つ調査である。工事に際し地盤改良工事が予定されたことから、試掘確認調査を実施した。調査区内にトレンチ2本(1T・2T)を設定した。

1T・2Tともに現地表面から50～60cmは近年の盛土である。その下に現在の造成前の耕作土層(紫黒粘質土)がある。その下に緑黒粘質土(3層)、オリーブ黒粘質土(4層)、灰粘質土(5層)と堆積し、河川もしくは沼状地形の痕跡を表すものと考えられる。5層から土師器・須恵器・青磁などが確認されたが、磨滅した小片である。状況から見て周囲からの流れ込みと考えられる。遺構は確認できない。遺跡がないことを確認し調査を終了した。



第39図 トレンチ位置図(1:800)

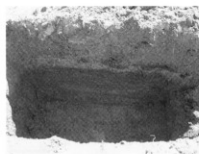


1. 耕作土(2P1.7)紫黒粘質土(動物糞含む)
2. 緑黒粘質土(19cm厚層含む)
3. 2.5V22 オリーブ黒粘質土
4. 2.5V41 灰粘質土(1層のみ確認)

第40図 断面図



1T全景



2T断面

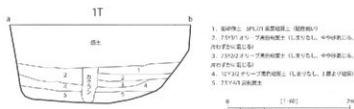
第41図 2011-09地点

2011-10 地点(我孫子2丁目188-3、189-3、193、194、195の一部 調査日:平成23年10月27日 調査面積:3.6㎡)

当該地は虫取遺跡の東部に位置する。店舗建設に先立つ調査である。

現地表面から60～70cmは近年の盛土である。その下に現在の造成前の耕作土層(紫黒粘質土)がある。その下にオリーブ黒粘質土(3・4・5層)が堆積し、河川もしくは沼状地形の痕跡を表すものと考えられる。4層から土師器片・須恵器片が確認されたが、磨滅した小片である。状況から見て周囲からの流れ込みと考えられる。遺構は確認できない。

遺跡がないことを確認し調査を終了した。



第42図 断面図

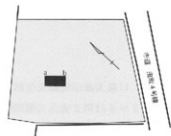
1. 耕作土(2P1.7)紫黒粘質土(動物糞含む)
2. 2.5V10 オリーブ黒粘質土(1.5m厚層含む、中層部確認、動物糞の存在に注目)
3. 2.5V22 オリーブ黒粘質土(1.5m厚層含む、中層部確認、動物糞の存在に注目)
4. 2.5V22 オリーブ黒粘質土(1.5m厚層含む、1層のみ確認)
5. 2.5V41 灰粘質土



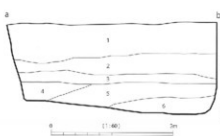
第43図 トレンチ全景

2011-13 地点 (虫取町1丁目100番1 調査日:平成23年12月5日 調査面積:4.9㎡)

共同住宅建設に伴う調査である。現地表面から50cmは近年の整地土、現代の生活面(1層)である。近世の瓦を多く含む。その下に灰褐色粘質土(2層)が堆積する。この層から中世瓦器碗、中世羽釜を確認した。近世の生活面であろう。2層以下は灰色粘土(3層)、オリーブ灰色粘土(5層)と粘土系土層が堆積する。2層と3層の境に中世ごろの遺物が確認されるが、それ以降、遺物は確認できない。その後地表面化から150cm程度掘削したが、遺構は認められない。遺跡がないことを確認し調査を終了した。
遺物 1は瓦器皿である。2は瓦器碗、やや外に広がりながら立ち上がり、高台小さいことから13C前半ごろと考えられる。3~5は瓦質羽釜である。6~8は半瓦である。6・7は瓦質、8は土師質である。時期は不明である。



第44図 トレンチ位置図(1:600)

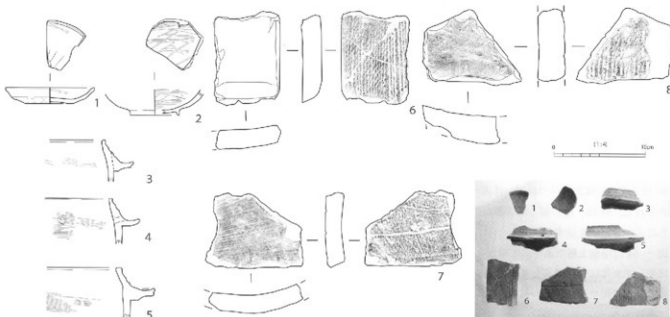


第45図 断面図

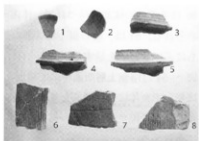
1. 75%以上の褐色土や中粒砂(遺物の多く含む)
2. 75%以上の灰色粘質土(やや砂子が多い、近世の生活面)
3. N/S 灰色粘土
4. NW/O 赤褐色粘土
5. SO/S/O オリーブ灰色粘土
6. N/S 褐色粘土



第46図 1T全景



第47図 遺物実測図



第48図 出土遺物

2010-09 地点(虫取町1丁目77番1 調査日:平成22年7月15日、7月20日~26日 調査面積:38.8㎡)

平成22年7月20日~26日に実施した2010-09地点の追加報告である。現況地表面から1.2mの深さまで掘削し、6世紀所産の須恵器高杯を検出したことを、「泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報30」(2011.3)で報告した。これを第1面とし、これより下層の遺構と遺物についての報告を行う。

遺構

【第2面】SD01 トレンチ西端から4.5mで検出。東西2.9m、深さ0.3mを測り、トレンチを南北に横切る。検出面はT.P.6.5m付近。埋土はオリーブ褐色、黄褐色を基調とする粘質土(第49図-8~30層)である。なお、第1面であるが、SD01の北側で管玉(第50図-1)を検出した。

SX01 トレンチ西端から11mで検出。東西4.3m、深さ0.1~0.17mを測る。検出面は、T.P.6.8m付近。

P01 トレンチ東端から1.9mの地点で検出。東西0.29m、南北0.20mの楕円を呈する。深さ0.15m、掘り方の埋土は、黄灰色粘質土を基調とし、鉄分を多く含む中心部と、炭化物が混じる周辺部の2層からなる。この部分には、土器片、底部に石を含む。

【第3面】SD01 下層 検出地点、規模は、第2面とほぼ同様で須恵器、土師器、自然石、炭化した木片など、200点余りが平面的に散乱する状態であった。埴土は黒褐色粘土、オリブ黒色粘土（第49図-29、30層）である。底部はT.P.6.1mを測る。

SD02 トレンチ西端1.2～2.6m付近、SD01の西側で検出。方向はSD01とほぼ同じ、埴土にはぶい黄褐色粘土、オリブ褐色粘土（第49図-36、37層）である。検出面はT.P.6.3m、底部はT.P.6.0～5.8mを測る。

SD03 トレンチ東端から4m、そこから西へ1.6mの範囲で検出。T.P.6.45m付近が検出面で、最深部はT.P.6.15mをはかる。トレンチを東西に横切る。なお、SD03 西側0.4m付近で横倒しの土師器蓋（第50図-31）を検出。T.P.6.3mを測る。

【第4面】 灰色もしくは灰オリブ色の砂、砂礫をベース（第49図-83、86、88層）とし、T.P.5.9～5.7mを測る。灰色細砂から弥生土器の底部（第50図-53）を検出したため、下層の黄灰色粗砂、灰色砂（第49図-91、92層）を削削したが、遺物・遺物は認められなかった。

遺物

約300点検出したうち51点を図示する。

1は箆玉破片。緑色凝灰岩製と思われる。気泡が見られ、光沢は無く乾燥した質感を持つ。前年度報告（『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報30』2011.3 P11 第17図-5）の6世紀の須恵器と同一面出土し、ここを第1面とする。2～6は第2面人力掘削時に出土した。2は布留式製の口縁部、3～6は須恵器。

7～16はSD01、17～23は同遺構下層から出土。17、18以外は全て須恵器である。20は完形の高杯蓋で蓋径14.5cm。

24～30は3面人力掘削時の出土。26は高杯の脚底部で、底径は18.0cmを測る。外反する杯部をもち、高さは20cm程度と思われる。

30は土師器甕で、口縁外面に面を持ち、体部にわずかであるがタタキが認められる。

31は器高29cmの大型甕で、口縁部が直線的にのび、右上がりのタタキがみられる。縦半分が残存していた。

32～35はSD02からの出土で、すべて土師器である。32は脚部から口縁部の残存率は全体の1/10程度であるが、口径6.8cm、底径2.1cm、器高5.4cmに復元できる。口縁部に2条のヘラ描き直線が走る。磨減が激しいが、精緻な斲七のミニチュア土器と思われる。

33は、口縁部が発達している小型丸底甕である。

36はSD03出土で壺底部と思われる。外面の調整は指によるナデで、胎土に角閃石を含む。

37～51は4面人力掘削時の出土である。37、38はいずれも口頸部を「く」字状に外反する口縁部をもち、底部は37が面を成し、

38は上方につまみあげる。39、40は広口壺で、39は球体の体部を持ち、40は直立する頸部に屈曲する口縁部を持つ。42～48はいずれも底部である。42は、甕あるいは小型の鉢で、わずかにタタキが確認できる。44は甕で、43、45は甕あるいは鉢と思われる。

46は半球体の体部を持つ鉢で、体部～底部に黒斑が認められる。49は高杯脚部。50は弥生土器の体部で、ハケによる直線文が認められる。51は、腫の張った胴部の無蓋盃に台が付く。外部全体にハケによる調整が、口縁部近くに黒斑が認められる。内外面ともいぶい黄褐色を呈する。

52～54は南側土層断面中で検出した土器である。52は広口壺で直立気味の頸部にゆるやかに曲線的に外反する口縁を持つ。54

は器台で全体に口縁端部を失っているが、ほぼ完形である。口径16.4cm、底径14.8cm、器高15.6cmを測り、内外面ともに浅黄褐色及び明黄褐色を呈する。裾部に黒斑が認められる。受部がやや外反気味であるが、変化は少なく、体部に口孔の透かしが3方向にみられる。

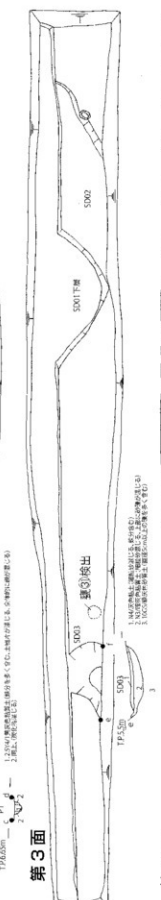
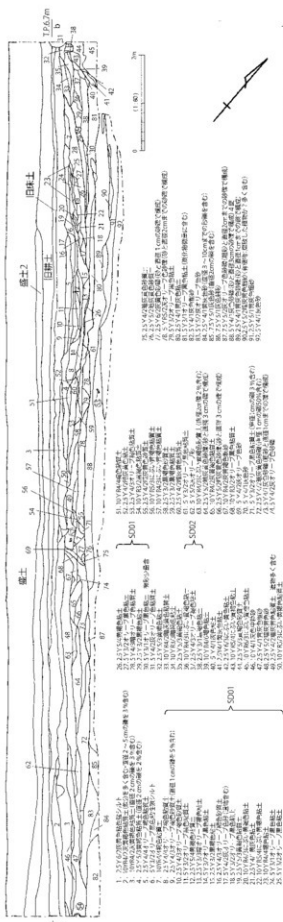
52～54は南側土層断面中で検出した土器である。52は広口壺で直立気味の頸部にゆるやかに曲線的に外反する口縁を持つ。54は器台で全体に口縁端部を失っているが、ほぼ完形である。口径16.4cm、底径14.8cm、器高15.6cmを測り、内外面ともに浅黄褐色及び明黄褐色を呈する。裾部に黒斑が認められる。受部がやや外反気味であるが、変化は少なく、体部に口孔の透かしが3方向にみられる。

52～54は南側土層断面中で検出した土器である。52は広口壺で直立気味の頸部にゆるやかに曲線的に外反する口縁を持つ。54は器台で全体に口縁端部を失っているが、ほぼ完形である。口径16.4cm、底径14.8cm、器高15.6cmを測り、内外面ともに浅黄褐色及び明黄褐色を呈する。裾部に黒斑が認められる。受部がやや外反気味であるが、変化は少なく、体部に口孔の透かしが3方向にみられる。

まとめ

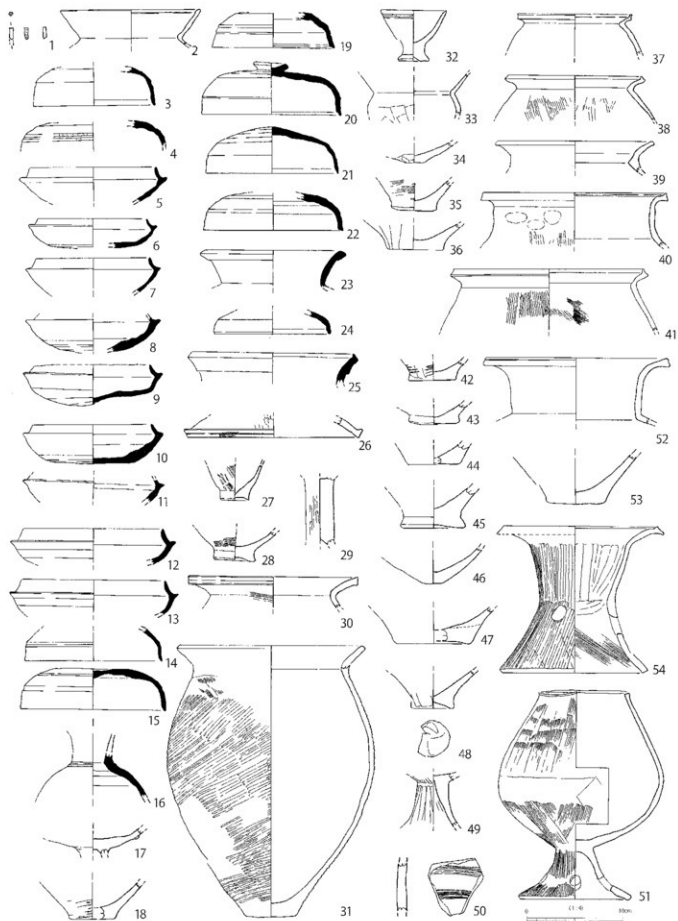
第2面で検出したSD01は、出土遺物から6世紀、第3面のSD01下層も時期は異なるものではない。一方、同遺構面のSD03は、その出土土器（36）、及び同面検出した甕（31）は、3世紀後半～4世紀頃と思われる。また、SD02は第4面にも及んでおり、出土遺物からこれらと同時期としたい。第4面で検出した台付無蓋盃（51）や土甕中で確認できた甕台（54）は弥生後期であるが、層がほぼ砂礫であるため、この時期もしくは、それ以後の地積と考える。SD01は、その地積及び検出状況からSD02の最終段階と考えたい。この水脈は旧河道で、近隣の溜池との関連が想定できる。

出土遺物の主要な集落は、市立小学校西側における縄文晩期の1器が機内第一様式新段階の弥生土器を伴って出土したV字状の溝によって、縄文～弥生時代の過渡期にはじまり中期初頭に至ったと考えられている。今回の調査により、弥生時代後期～古墳時代の土器を検出した。そう遠くない場所にこの時期の集落があったと考えられる。



第49図 2010-09地点 南壁断面図・断面図・平面図

※C-数字は遺物番号に対応



第50图 遗物尖测图



第2面全景 東から（手前：SX01、奥 SD01）



P1 半截状況



第3面 SD01 下層遺物出土状況 西から



第3面 SD01 下層遺物出土状況 西から



第3面 SD03 検出状況 西から



第3面 遺物（第50図-③）検出状況 南から

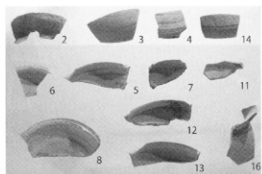


第4面 SD02 東から

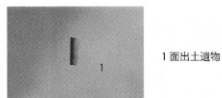


第4面 SD02 東から

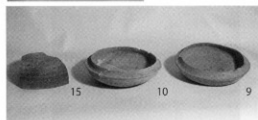
第51図 2010-09地点



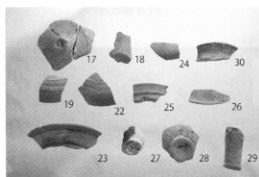
SD01 出土遺物



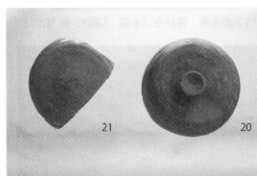
1面出土遺物



SD01 出土遺物



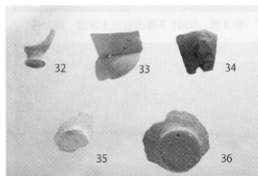
SD01 下層・3面人力掘削 出土遺物



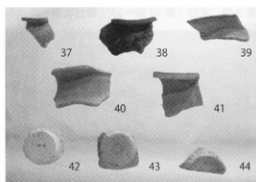
SD01 下層出土遺物



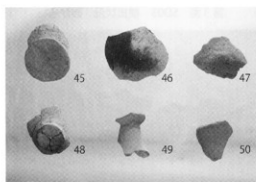
3面出土遺物



SD02 出土遺物



4面人力掘削 出土遺物

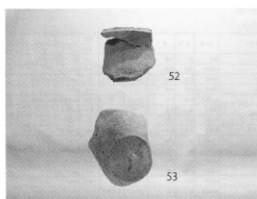


4面人力掘削 出土遺物

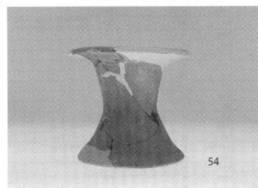
第52図 出土遺物(1)



4面人力掘削 出土遺物



セクション内出土遺物



セクション内出土遺物

第53図 出土遺物(2)

5. 大園遺跡

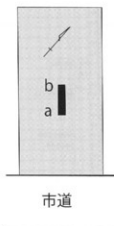
大園遺跡は本市、和泉市、高石市の三市にまたがる遺跡である。

2011-07 地点 (末広町1丁目328-13 調査日:平成23年10月13日 調査面積:2.5m²)

個人住宅建設に伴う試掘調査である。調査区中央部にトレンチを設定し調査を行った。

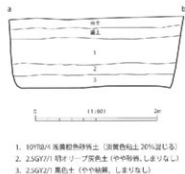
現地表面から40cmは近年の盛土である。その下に浅黄橙色砂質土(1層)がある。この下に明オリブ灰色土(2層)、黒色土(3層)が堆積する。周辺地域の調査状況からみて、2層、3層は谷状地形に堆積した層と考えられる。

遺構・遺物は確認できなかったため、調査を終了した。



市道

第54図 トレンチ位置図(1:400)



1. 10P64H 浅黄橙色砂質土 (含鉄量約10%以上)
2. 25G77H 明オリブ灰色土 (やや粘り、しまりなし)
3. 23G72H 黒色土 (やや粘り、しまりなし)

第55図 断面図



第56図 トレンチ全景(南東から)

発掘調査報告書	
ふりがな	いずみおおつし、いずみふんかい、いづみつちやうき、いづみさんこう、いづみ
署名	東大津市埋蔵文化財調査課報告31
調査名	
シリーズ名	東大津市文化財調査報告
シリーズ番号	47
編者名	池間 研実 高野 美和
編者機関	東大津市教育委員会
所在地	〒595-8686 大阪府東大津市東園町9番12号
発行年月日	西暦 2012年 3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査対象面積 (㎡)	調査原因
穴跡遺跡	大阪府東大津市池浦町5丁目431-1 調査番号 2011-02	272060	34度 29分 52秒	135度 25分 14秒	20110228	110.08	木造3階建個人住宅 建設に伴う事前調査
池浦遺跡	大阪府東大津市池浦町4丁目219番2 の一部 調査番号2011-03	272060	34度 29分 02秒	135度 24分 58秒	20110316	170.63	木造2階建個人住宅 建設に伴う事前調査
	大阪府東大津市下桑町159-1、 159-3 調査番号 2011-08	272060	34度 30分 42秒	135度 24分 46秒	20111024	192.22	木造2階建個人住宅 建設に伴う事前調査
池上管根遺跡	大阪府東大津市管根町2丁目189-3、 189-5 調査番号 2011-01	272060	34度 30分 12秒	135度 25分 27秒	20110221	185.86	木造2階建個人住宅 建設に伴う事前調査
	大阪府東大津市管根町1丁目地内 調査番号 2011-11	272060	34度 30分 30秒	135度 25分 34秒	20111031 ～ 20111109	240.76	配水管布設工事に 伴う事前調査
池取遺跡	大阪府東大津市池取町 7丁目574-10、1 調査番号2011-04	272060	34度 29分 49秒	135度 24分 52秒	20110520	116.03	木造2階建分譲住宅 建設に伴う事前調査
	大阪府東大津市狭瀬子1丁目253-2 の一部、254-2 調査番号2011-05	272060	34度 29分 45秒	135度 24分 45秒	20110525	755.67	木造2階建共同住宅 建設に伴う事前調査
	大阪府東大津市狭瀬子2丁目236- 2、416-2、223-2、222-2、221- 3、221-3、4-5、219-2 調査番号2011-06	272060	34度 29分 26秒	135度 24分 44秒	20110708 ～ 20110711	80.01	下水道管布設工事 に伴う事前調査
	大阪府東大津市狭瀬子2丁目226-2、 417-2、237-3、234-3 調査番号2011-12	272060	34度 29分 37秒	135度 24分 45秒	20111114	31.50	下水道管布設工事 に伴う事前調査
	大阪府東大津市狭瀬子2丁目188- 3、189-3、193、194、195の一部 調査番号2011-09	272060	34度 29分 34秒	135度 24分 49秒	20111027	1369.00	木造平屋建て店舗 建設に伴う事前調査
	大阪府東大津市狭瀬子2丁目188- 3、189-3、193、194、195の一部 調査番号2011-10	272050	34度 29分 33秒	135度 24分 48秒	20111027	728.37	木造平屋建て店舗 建設に伴う事前調査
大園遺跡	大阪府東大津市大園町1丁目100番1 調査番号 2011-13	272060	34度 29分 49秒	135度 24分 28秒	20111205	363.67	鉄骨2階建共同住宅 建設に伴う事前調査
	大阪府東大津市大園町1丁目77番1 調査番号 2010-09	272060	34度 29分 46秒	135度 24分 37秒	20100720 ～ 20100726	1990.75	鉄骨2階建店舗建設 に伴う事前調査
	大阪府東大津市大園町1丁目328-13 調査番号 2011-07	272060	34度 30分 48秒	135度 25分 51秒	20111013	187.89	木造2階建個人住宅 建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
穴跡遺跡	2011-02	弥生地	古墳	なし	なし
池浦遺跡	2011-03	集落跡	弥生	なし	なし
2011-08	集落跡	古墳	なし	なし	なし
池上管根遺跡	2011-01	集落跡	弥生・古墳・奈良・ 平安・中世	なし	なし
2011-11	集落跡	弥生・古墳・奈良・ 平安・中世	ピット16基・溝1条・埴戸1基	土師器、須恵器、埴戸器、瓦器	
池取遺跡	2011-04		なし	瓦器	
2011-05			なし	なし	
2011-06			なし	須恵器	
2011-12	集落跡	弥生・古墳・中世	なし	なし	
2011-09			なし	なし	
2011-10			なし	なし	
2011-13			なし	なし	
2010-09			ピット1基・溝状遺構3条	新石器・土師器・須恵器・瓦玉	
大園遺跡	2011-07	弥生地・集落跡・古墳・ 社寺跡・城壁跡	田石器・弥生・古墳・ 中世・古墳	なし	なし

泉大津市文化財調査報告47

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報31

2012年(平成24)3月31日

発行・編集 泉大津市教育委員会
生涯学習課
泉大津市東雲町9番12号

印刷 大栄印刷株式会社